平成２４年度試験研究課題設定のための要試験研究問題提案・回答書

（整理番号） 015	**提案機関名**	県央家畜保健衛生所

要望問題名

乳牛における乾乳期短縮による繁殖成績の向上

要望問題の内容 【 背景、内容、対象地域及び規模（面積、数量等）】

乳用牛における乾乳期は、泌乳の停止による栄養代謝の変化、泌乳で痛んだ乳腺組織の回復、胎児の著しい成長など、乳牛にとって大きな生理的変動が伴う期間とされている。また、乳牛における周産期病は、分娩後の負のエネルギーバランスやルーメン機能の低下等と密接に関連している。分娩後のエネルギーバランスを正の方向にするための試みとして、乾乳期の短縮やゼロ乾乳による繁殖成績の向上が報告されている。

そこで、乳牛の周産期病の改善及び繁殖成績向上の一助とするため、乾乳期短縮による乳牛の乳量、乳質、繁殖成績、周産期病の発生状況及び耐用年数等への影響を調査する。

解決希望年限	①1年以内　②2～3年以内　③4～5年以内　④5～10年以内
対応を希望する研究機関名	①農業技術センター　②畜産技術所　③水産技術センター ④自然環境保全センター

備　考

※ ここから下の欄は、回答者が記入してください。

回答機関名	農業技術センター畜産技術所	**担当部所**	企画研究課

対応区分	①実施　②実施中　③継続検討　④実施済　⑤調査指導対応　⑥現地対応　⑦実施不可

試験研究課題名 （①、②、④の場合）

乾乳期短縮が泌乳前期の乳量・乳成分，血液成分，疾病発生および繁殖性に及ぼす影響、中村ら、日畜会報、2011

乳牛の乾乳期間を 40 日に短縮しても分娩状況、乳生産性、繁殖性に影響しない、岐阜県畜研、平成 21 年度 「関東東海北陸農業」研究成果情報

機能性サプリメントを活用した乳用牛の繁殖性改善技術の開発（H21-23）

対応の内容等

ご要望の乾乳期間の短縮による周産期疾病の予防や繁殖成績の向上については、（独）北海道農業研究センター、根釧農業試験場、県協定研究等において研究が行われ、研究成果が公表されています。

当所では乳牛の繁殖成績の向上を目的とした抗酸化サプリメントの給与や栄養水準の調整について独法や他県との共同研究に取り組んでいます。また、平成24年度より分娩後の発情回帰の早期化を目指した研究の実施について検討しています。

解決予定年限	①1年以内　②2～3年以内　③4～5年以内　④5～10年以内

備　考